

いわき農林水産ニュース

平成30年4月号(第158号) 発行 4月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



花の色は、赤・黄・ピンク・オレンジ・
白など…母の日の贈り物に
カーネーションはいかがですか？

目次

- ・【新年度を迎えて】いわき農林事務所長新任挨拶…p.1
- ・いわき管内出先機関新任幹部職員紹介…p.2

〔各種取組の実績(3~4月)〕…p.3~

〔お知らせ・連載記事〕

- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー…p.6
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.8
- ・山菜の出荷制限の取扱いについて…p.9
- ・イベント情報…p.9
- ・平成29年度竣工工事紹介…p.10
- ・GAP コーナー…p.11
- ・6次化商品紹介…p.11
- ・平成30年度森林保全巡視員について…p.12

新年度を迎えて

いわき農林事務所長 新任挨拶

このたび、4月の人事異動で福島県いわき農林事務所長に着任いたしました家久来 克之(かくりい かつゆき)と申します。

いわき地方での勤務は初めてとなりますが、着任後、いわき市役所を始め農林業に携わる関係機関・団体の方々や生産者の方々と接する中で、いわき地方の活性化に向けた思いや情熱を肌で感じることができ、活気に満ちた元気な街であるとの印象を強く受けました。

さて、平成30年度は「復興・創生期間」の折り返しとなりますが、県では「ふくしま農林水産業の成長産業化！」を目指し、「流通販売の強化」、「生産活動の拡大」、「生産基盤の整備」の3本柱に取り組んでおります。

特に、風評により失われた販売棚を取り戻すための対策や、新たな販路の開拓、売れる米づくりや大規模化、園芸品目などへの転換を推進する対策、輸出拡大の取組、そして、林業の成長産業化に向けた生産基盤の整備を強力に支援してまいります。

いわき地方においては、震災や原発事故から7年が経過する中、農業生産基盤や森林等の整備が進み、津波により甚大な被害を受けた沿岸部の農用地において、ほ場の大区画化に取り組んでいた250haあまりのすべての農地で営農再開が可能となり、また、いちごやトマトなどの生産拡大、ベトナムへの日本梨(幸水・新高)の輸出や磐城農業高校が県内の高校で初めてとなる第三者認証「GAP」の取得、そして、森林・林道整備の着実な整備など、様々な取組が大きな光となって、いわき地方を輝かせていると感じております。

引き続き、GAP 認証取得の推進や日本梨の輸出支援などの安全・安心の確保や輸出拡大の取組と、農地の大区画化や森林・林道等路網等の生産基盤の整備に、関係機関と一丸となって支援してまいります。

結びに、「サンシャインいわき! 笑顔あふれる農林業をめざして!!」のキャッチフレーズの下、いわき地方農林業の復興・再生とさらなる躍進に向け、職員一同、現場主義を貫き、挑戦を続けてまいりますので、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



いわき農林事務所長
家久来 克之

いわき管内出先機関 新任幹部職員紹介

このたびの人事異動で、いわき管内の県出先機関の6名の幹部職員が着任いたしました。管内の農林水産関係職員一同、この1年もより活気あふれる農林水産業をめざして取り組んでまいります。

水産試験場長 松本育夫

このたび、水産試験場長に着任しました松本育夫です。内水面水産試験場長からの着任になりますが、一昨年までは水産試験場において、沿岸漁業の復興、栽培漁業の再構築に向けた業務に携わってきました。

これまでの経験を生かしながらも、気持ちを新たに本県沿岸漁業の復興・再生に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



いわき農林事務所 農業振興普及部長 久力幸

いわき農林事務所農業振興普及部長に着任しました久力幸（くりき みゆき）です。

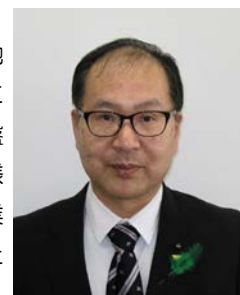
いわき地方における農業の復興・創世を加速し、産地の生産力を強化するとともに、魅力と信頼性を高めた競争力のある農業の実現に向けて、農業者をはじめ市、関係機関・団体の皆様との連携を密に、農業振興に取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



いわき農林事務所 農村整備部長 鈴木徹

いわき農林事務所農村整備部長に着任しました鈴木徹です。7年ぶり3度目のいわき農林事務所勤務となります。

東日本大震災当時、災害復旧担当の主任として、毎日忙しく被災農地の確認や農業用ダム・ため池の安全確認をしていた頃を思い出します。今後はみごとに復旧された農地や農業用施設をいかに効率的に利用し、農業振興を支える基盤をいかに維持していくかを皆様と話し合いながら、攻めの農業農村整備事業を展開していきたいと思っております。



いわき農林事務所 森林林業部長 近藤克彦

いわき農林事務所森林林業部長に着任しました近藤克彦です。

南会津農林事務所から転入いたしましたが、いわき農林事務所勤務は平成10～12年度に続き2度目となります。その時分から各地域で頑張っておられる森林所有者や林業関係者の方々のご意見をお聞きしながら、森林の整備推進や林業の振興に前向きに取り組んで、明るい話題が増えるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



いわき農林事務所 農村整備部副部長 先崎秋実

いわき農林は震災直後に2年勤務して以来の赴任です。家久来所長・鈴木部長の下、ユーザー本位の事業実施を心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

水産事務所 次長（総務） 吉田登

皆様のお力添えをいただき、県一漁協合併など課題を解決しながら、本県漁業の再生に向けて道筋を整えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

いわき地方防霜対策本部を設置

〔3月28日(水)〕

県いわき合同庁舎において管内の関係機関・団体を参集し農業災害対策会議を開催しました。

会議では、平成29年度の農業気象災害の発生状況や、平成30年度における災害発生時の体制などについて確認と協議を行い、いわき地方防霜対策本部を設置しました。

本部の設置は例年どおり4月1日から5月31日とし、3月30日には農林事務所へ防霜対策本部の看板設置も行いました。設置期間中、霜注意報の発令時には降霜の有無や農作物への被害状況を確認してまいります。

今年度も農業災害の無い1年を祈るとともに、農業災害発生時には皆様のご協力を受けながら、迅速な対応を進めてまいります。
(農業振興普及部)



(防霜対策本部看板設置の様子)

福島県農業総合センター農業短期大学校入校式

〔4月11日(水)〕

福島県農業総合センター農業短期大学校において、平成30年度入校式が開催され、56名の入校生が新たな学び舎の門をくぐりました。

いわき市からは10名が、水田経営・野菜経営・果樹経営・花き経営・畜産経営5つ全ての学科にそれぞれ入学され、入校式終了後には当所職員との懇談会も行われました。

入校生からは、「将来地元で就農したい」、「卒業後は自分で農業経営を行いたい」といった前向きな意見が聞かれました。農業振興普及部では、留学研修を行う先進農家の選定や、卒業後の営農計画策定等を支援してまいります。

(農業振興普及部)



(入校式の様子)

いわきFCへの「Premium Iwaki Laiki」贈呈式

〔3月16日(金)〕

いわき市常磐のいわきFCパークにおいて、プロサッカークラブ「いわきFC」へいわき産コシヒカリのブランド米、「Premium Iwaki Laiki(プレミアムいわきライキ)」600kgが贈呈されました。これは、平成29年にIwaki Laikiの年間販売量が初めて100万kg超えを達成したことを記念し、Iwaki Laiki 戦略ブランド化推進本部が地元いわきから将来のJリーグ参入を目指す「いわきFC」を食で応援しようと企画したものです。

当日は、スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチームやゆるキャラ「くまんま」も登場し、田村雄三監督と平岡将豪選手に巨大なPremium Iwaki Laikiのパッケージを手渡しました。これを機に、今後は、さらに地元のスポーツと食の文化が強く結びつき、互いに発展していくことが期待されます。
(企画部)



「くまんま」とフラガールから巨大なPremium Iwaki Laikiを贈呈

遠藤進一さん、家族経営協定を締結

〔4月9日(月)〕

いわき市と当所の立ち会いのもと、好間町の認定農業者遠藤進一さんご家族が、管内で21件目となる家族経営協定を締結しました。

今回、締結となったきっかけは、認定農業者のカウンセリングの際に進一さんからの後継者との共同申請や将来の経営移譲についての相談でした。当所から家族経営協定を提案し、家族で話し合いを重ねながら家族のルールを作成し、家族経営協定の締結となりました。

進一さんからは、「家族経営協定の締結を機に、より一層の経営の発展に向けて家族で頑張っていきます。」との力強いお言葉をいただきました。



家族経営協定を締結した
進一さん（前列中央）と
ご家族のみなさん（左右）

（農業振興普及部）

家族経営協定について

家族経営協定は、経営の方針や役割、働きやすい環境づくりなどを家族の話し合いで決めた農業を共同経営的に営むためのルールです。家族での農業経営は、就業条件があいまいになりがちです。家族が話し合っ規則をつくり、守っていくことで、家族一人ひとりが農業にやりがいを持ち、それぞれの持つ能力を最大限発揮して、よりよい経営が可能になります。

当所では、今後も認定農業者や女性農業者、新規就農者等を中心に協定の周知や協定締結に向けたお手伝いをしていきます。詳しくは下記までお問い合わせください。

■福島県いわき農林事務所 農業振興普及部 TEL 0246-24-6161

いわき農業青年クラブ連絡協議会、第50回通常総会を開催 〔3月27日(火)〕

県いわき合同庁舎において、いわき農業青年クラブ連絡協議会の第50回通常総会が開催されました。

総会では、平成29年度の事業実績として、茨城県で開催した鳥獣被害対策研修や6次化製品開発・販売に取り組む団体の視察研修のほか、市内保育園で実施した食育活動等について報告されました。

平成30年度の事業計画については、視察研修や保育園での食育活動を継続して実施することとなりました。今後、月1回程度、定例会を開催し、詳細を検討していくこととなります。



（総会の様子）

（農業振興普及部）

いわき農業青年クラブ連絡協議会について

青年クラブ会員を募集しています。青年クラブの活動に賛同いただける方や、興味のある方は、下記までご連絡ください。

■福島県いわき農林事務所 農業振興普及部 TEL 0246-24-6162

ふくしまの水産物販売戦略会議を開催

〔3月22日(木)〕

県産水産物の競争力強化と販路の拡大・確保を図るための販売戦略を検討することを目的に、県水産会館において開催されました。福島県漁業協同組合連合会が設置主体で、県内漁業関係者、学識経験者、内閣府・消費者庁・水産庁関係職員など約30名が出席し、最近の本県水産業に関する報告・講演そして意見交換を行いました。

報告は、高鮮度高品質化技術にかかる実証試験と水産エコラベルの認証取得状況に関するもので、講演は中央水産研究所宮田主幹研究員より演題「産地から消費までの福島県産水産物需要と対策について」として市場評価や今後の展望に関する内容でした。意見交換では、漁業者から操業時等の鮮度保持技術への要望や今後の水揚げ量回復時の価格対策の質問等が出され検討課題を共有しました。(水産事務所)



(販売戦略会議の様子)

県漁連が水産エコラベル(MEL)認証を取得

〔3月19日(月)〕

日本水産資源保護協会(東京中央区)において、福島県漁業協同組合連合会に対して水産エコラベル(MEL:マリン・エコラベル・ジャパン)の認証証書授与式が行われました。今回の認証内容は、ヒラメ、カツオ、ホッキガイ等7魚種に係る13件の生産段階認証と7件の流通段階認証で、今後、この水産エコラベルを付した県産水産物の流通が期待されます。

漁業者、漁業関係団体及び県は、震災以前より連携して資源管理型漁業へ取り組んでおり、今回の水産エコラベルの取得は、持続可能で適切に資源が管理された漁業として認証されたもので、大きな励みとなりました。今後は、産地及び消費地流通業者などに流通段階認証の取得を支援し、水産エコラベル制度の消費者の方々への供給網を拡大する予定です。(水産事務所)



(右:認証証書を手渡される
福島県漁連 野崎会長)

「浜のサムライワールド in 松川浦」に参加!

〔3月25日〕

「東北中央自動車道」の開通に合わせて県相双地方振興局が主催した「浜のサムライワールド in 松川浦」に出展しました。

ブースでは、観光パンフレット配布や「アクアマリンふくしまの紙かぶとづくり」、「フラ衣装着用体験」などを行い、多くの方にいわきの魅力を感じていただきました。また、「小名浜さんま郷土料理再生プロジェクト」が「さんまのポーポー焼き」や「さんまのつくね」などのPRと販売を行い、大盛況のうちに完売しました。今年7月のJヴィレッジ一部再オープン



(さんまポーポー焼き大盛況!)

や2020年3月の常磐線全線再開など、今後ますます浜通り地方に注目が集まります。様々な機会を通して、いわきの魅力を発信してまいります。(いわき地方振興局)

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.4

葉ねぎ一筋 22年！葉ねぎでいわきを元気にします！

草野グリーンファーム 草野城太郎さん

前回取材にご協力いただいた菊田の郷 助川農園の皆さんから紹介のあった、小川町の葉ねぎ農家、草野グリーンファームの草野城太郎さんへインタビューに伺いました！

いわき市産葉ねぎは私が作っています！

城太郎さん：私たち草野グリーンファームでは、葉ねぎの水耕栽培をしています。実は、いわき市内で葉ねぎの水耕栽培をしているのは我が家だけです。両親と後継者である私とで協力しながら、葉ねぎ一筋で営農しています。葉ねぎ栽培を始めたばかりの35年前は、葉ねぎを食べる文化が東日本には浸透しておらず、両親はとても苦労していました。しかし、今では苦労の甲斐あって、毎日市内のスーパーに並べていただき、年間の生産量約50トンのうち約9割をいわきで消費していただいています。いわきの人たちに支えられ、地域のつながりの大切さを実感しながら日々取り組んでいます。



インタビューにご協力いただいた
草野城太郎さん（43）

指導農業士であり、県農業協同組合青年連盟の委員長や小学校のPTA会長まで務め、様々な活動にとっても積極的な方です。

両親から学び、迷うことなく農業の道へ

城太郎さん：子どもの頃から、父・母の背中を見て農業を継ぐと決めていました。農業高校、農業大学と進学し、そのまま後継者として就農しました。今では就農して22年になりますが、農業をしていて良かったと思うのは、やはり実際に食べてくれた人の声を聞く時です。水耕栽培は生育が早く、2ヶ月に1回くらいのペースで年間通して収穫できます。商品が常に店頭並び、消費者の方から「今日もスーパーで買ったよ！」という声が聞けるのも、水耕栽培ならではの喜びだと思います。



また、地域のお祭りで葉ねぎ入りの豚汁を振る舞ったり、商工会の青年部で葉ねぎの塩焼きそばを出展したりと、様々な場面で地域とのつながりを感じられるのが、農業の素晴らしいところです。

葉ねぎの魅力は？

城太郎さん：葉ねぎは本当に万能で、香りや彩りが良いので、薬味としてだけでなくあらゆる料理に使えます。刻んで贅沢にあつあつのご飯に乗せ、鰹節・醤油をかけたり、ニラの代わりに葉ねぎを使ってねぎ餃子にしたり、個人的には、ねぎ入りたまご焼きがおすすめです。是非、いろいろな食べ方を楽しんでみてください。



葉ねぎの選別作業中のご両親（右側のお二人）と
パートのみなさん

今後の展望は・・・

城太郎さん： 今後は、ほ場の規模拡大をして、雇用も増やしたいと考えています。法人化や GAP 認証の取得も視野に入れながら、さらに経営の向上を目指していきたいです。

また、担い手が高齢化し、若い農業者が減少しているのも感じます。ただ、3人の子どもには、就農を強要はしません。私が両親の背中を見て就農したように、農業に取り組む姿勢を見せるなかで、子どもの判断に任せようと思っています。その代わりに、「農業をやってみたい」と言ってくれたときには、3人全員でもなんでも、全力でサポートしたいと思っています。



たくさんの葉ねぎが生育するほ場



芽生えたばかりの葉ねぎ
なんだかかわいらしいです

草野グリーンファーム

【お問い合わせ】

所在地：いわき市小川町下小川字広畑 96 TEL：0246-83-0256

営業時間：8：00～17：00

★施設見学をご希望の際はお問い合わせください。

トピック1

第1回高校生レシピコンテストのグランプリ作品が 市内企業の社員食堂に登場！

当所が主催した第1回高校生レシピコンテストでグランプリを受賞した料理とスイーツが、アルパイン(株) (3/20)、(株)タンガロイ (3/29)、(株)クレハいわき事業所 (3/30) の社員食堂で提供され、その様子が福島民友、福島民報、いわき民報に掲載されました。

この企画は、いわき商工会議所産業振興委員会所属の上記3社が地産地消やいわき市の経済活性化、地元の次世代人材育成を目的に、社食業務委託先のエームサービスの協力を得て、各社の社食に1日限定で実施され、料理部門の「トマトとマッシュルームの炒めもの」とスイーツ部門の「カラフルトマトのレアチーズ」が提供されました。

(株)クレハいわき事業所では、地産地消にこだわったため、ほかのメニューよりほぼ倍の価格と割高ながら、営業開始の午前11時半から多くの社員の皆さんが列をつくり、高校生のアイデアあふれる料理やデザートに舌鼓を打っていました。(提供：いわき民報社 平成30年3月29、31日の記事を引用)



グランプリ作品を味わう
(株)クレハ職員の方々

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年3月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年3月の農林畜産物モニタリングでは、検査した7品目24検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）6、菌床なめこ（施設）2、菌床うすひらたけ（施設）1、エリンギ（施設）1、ふきのとう（野生）2、牛肉 8、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（3月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る※）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は平成29年9月11日に該当生産者6名のほ場に限り出荷制限解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年3月の水産物モニタリング検査では、810検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年3月には98.6%となっています。4月24日には、常磐ものとして名高いスズキを含む3種の出荷制限が解除となり、4月24日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の7種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ サクラマス ムラソイ
カサゴ ピノスガイ クロダイ
ヌマガレイ

平成30年4月24日現在

※キツネメバル、シロメバル、スズキは、平成30年4月24日に出荷制限解除となりました。

トピック2

いわき市立田人中学校、全日本学校関係緑化コンクールで最高賞を受賞！

平成29年度的全日本学校関係緑化コンクール「学校林等活動の部」でいわき市立田人中学校が最高賞である特選の農林水産大臣賞に輝きました。表彰式は、6月10日に南相馬市で開かれる第69回全国植樹祭で行われます。

田人中学校には約4.5haの学校林があり、生徒や教職員、保護者だけではなく地元住民も参加して、積極的に学校林活動に取り組んできました。

震災以降活動を一時中断していましたが、平成28年から地域とともにある学校を目指した総合学習「たびと学」が始まり、学校林活動を地域の生業である林業について深く考える機会としました。

学校林の除間伐活動で地元の田人林業研究会や指導林家、青年林業士から、森林の大切さや田人林業の伝統について学んだり、伐採した木材を活用して「木製コースター」を作製し、震災以降交流を深めている宮崎県内の小中学校に感謝を込めて寄贈するなど、学校林活動を通してふるさと田人を支える子どもたちの育成に取り組んでいることが高く評価されました。



注意

山菜の出荷制限の取扱いについて

現在、山菜の発生・採取の時期となりましたが、採取者や直売所担当者の皆様におかれましては、次の点に留意するようお願いします。

- 1 現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は（表）のとおりです。

これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により「基準値以下」であっても出荷・販売はできません。

なお、県内市町村毎に出荷制限品目等が定められているので、県のHPまたは森林林業部で確認してください。

- 2 出荷制限等品目以外の山菜について、県では市町村単位で緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。モニタリング検査の結果は、新聞や県のHP「ふくしま新発売。」などで公表されています。

- 3 農産物を販売する場合は、「名称」「原産地」を必ず表示してください。

（表）いわき市産の山菜の出荷制限品目

制限、自粛	品目
出荷制限	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る*）、こしあぶら
出荷自粛	さんしょう（野生のものに限る）

※注 わらび（栽培）は、該当生産者のほ場からの生産品に限り、出荷可能となっています。新たに生産・出荷を検討している方は森林林業部へご連絡ください。

原産地表示方法

表示例	
名称	うど
原産地	いわき市産

（森林林業部）

イベント情報

アリオス・平中央公園
で同時開催！

第47回全国林業後継者大会

- 日 時 平成30年6月9日（土）13：30～16：30
- 会 場 いわきアリオス 大ホール
- 主 催 福島県林研グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、いわき市、福島県

当大会は、翌日10日に南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭」の関連行事で、林業振興や若手林業者育成を目的に、林業関係者による活動発表やパネルディスカッション等が行われます。アリオス前の平中央公園では、いわきトマトフェス（下段参照）も同時開催されますので、併せてお楽しみください。

いわきトマト Fes!!

- 日 時 平成30年6月9日（土）10：00～14：00
- 会 場 平中央公園
- 主 催 いわき市農業生産振興協議会、JA 福島さくらいわき地区本部
- 共 催 JA ライフクリエイイト福島、ふくしまFM

全国林業後継者大会と同時開催で、トマトづくりのイベントが開催されます。いわき市産トマト及び加工品、スイーツや料理の販売のほか、フラダンスショーやじゃんがら念仏踊り等のステージイベント、トマト詰め選手権等の参加型イベントも企画されていますので、ご家族、ご友人と是非お越しください。

いわき農林事務所では、生産基盤の増強と安全安心の確保に取り組んでいます！

平成29年度 竣工工事紹介

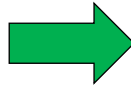
【復興基盤総合整備事業 夏井地区】

夏井地区は東日本大震災で津波を受けた田畑・道水路等について 156ha のほ場を整備します。この工事は西側 36.4ha の範囲ですが、夏井廃寺跡など重要な遺跡があり、盛土工法で文化財保護も図りました。

(農村整備部)



施工前



竣工 (平成30年3月)

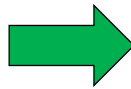
【基幹ストックマネジメント事業 夏井川左岸地区】

経年劣化により、目地の脱落や表面の摩耗が発生している幹線水路の表面を、コンクリートやモルタルで被覆し、経済的に長期間の機能の維持を図ります。

(農村整備部)



施行前



竣工 (平成30年3月)

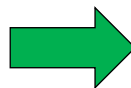
【予防治山事業 和具地区】

小川町上小川字和具地区の治山工事は、平成 19~20 年度及び平成 22~23 年度、さらに平成 28 年度(繰越)に森林斜面の崩壊の復旧と崩壊等の予防のために実施しました。この工事により、森林の斜面を安定させて、下方の人家・市道・鉄道・農地等を保全します。

(森林林業部)



施行前



竣工 (平成29年8月)

磐城農業高校が県内高校で初めて JGAP を取得！

福島県立磐城農業高等学校は、3月20日（火）に福島県内の高校で初めてJGAPを取得しました。認証品目は米で、米での認証取得はいわき管内では初めてとなります。

3月27日（火）、磐城農業高等学校にて認証報告式が行われ、渡辺譲治校長（4月から福島県立岩瀬農業高校長）を始め、実際に審査に立ち会った生徒2名から、JGAP取得に対する意見を伺うことができました。園芸科2年（当時）の江尻侑人さん、遠藤大騎さんは「GAP自体は知っていたが、実際に取り組んだのは初めてだった。今後はGAPに取り組むことを当たり前としていきたい。」と意気込んでいました。渡辺校長からは「認証取得が生徒の自信となった。生徒と共に地域の農業の振興・発展に貢献したい。」とGAP認証に対する前向きな言葉がありました。（農業振興普及部）



（左から、遠藤さん、江尻さん、渡辺校長）



（磐農米と JGAP 認証書）

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！

平倉前のケーキ店「ペールノエル」の商品をご紹介します。「米粉のロールケーキ」は、お米からは想像できないほど「ふんわり」した生地が、「もちもち」の生クリームと、まるでゼリーのような「ぶるぶる」のプリンを優しく包み、異なる3つの食感を一度に楽しめる、ここでしか味わえないロールケーキです。「くまんまのチョコーヒー」は、平商業高校の生徒と共同開発したパウンドケーキで、コーヒーの苦さとチョコレートの甘さが絶妙なバランスになるまで試作を重ねました。どちらも、いわき産米の米粉を使用したこだわりのケーキですので、是非お召し上がりください。



パティスリー ペールノエル
●いわき市平字倉前116-4 倉前クリーンビル1-1-A
●TEL&FAX:0246-84-8875



**米粉の
ロールケーキ**

【販売価格】
●ホール/1,200円(税込)
●カット/250円(税込)

いわき産米粉とオリジナルブレンドの生クリームを使用した、甘さひかえめなロールケーキです。



**くまんまの
チョコーヒー**

【販売価格】
●ホール/1,800円(税込)
●カット/200円(税込)

いわき産米粉使用。コーヒー豆処平店の「サンシャインブルーコーヒー」を練り込んだ濃厚な味わいのパウンドケーキです。

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧ください。

平成30年度 森林保全巡視員について ～委嘱状交付式～

4月2日（月）、県いわき合同庁舎大会議室において、森林保全巡視員委嘱状交付式を執り行い、当所 家久来所長より9名の方々に委嘱状を交付しました。引き続き、いわき地方森林パトロール協議会を開催し、効率のよい巡視業務となるよう関係機関との連絡調整の強化と情報交換を行いました。

新緑の時期となり、多くの方が森林に入り自然を楽しむ機会が増えてきます。森林の豊かな恵みをいつまでも受けられるよう、森林保全巡視員には今後1年間、いわき地方の保安林や県営林において、森林内の気象害や病虫害の発見、無許可の伐採や開発行為の発見といった巡視活動とともに、入山者に対する山火事防止の啓発活動を指導していただくこととしています。



(森林保全巡視員委嘱状交付式の様子)

平成30年度 森林保全巡視員

氏名	巡視区域
熊谷 達也 氏	大久、久之浜、平
菅波 昭典 氏	四倉
駒木根 武夫 氏	川前（小白井、上桶売）
永山 正一 氏	川前（川前、下桶売）
松本 照之 氏	小川

氏名	巡視区域
赤塚 信一 氏	好間、内郷、常磐
平子 美穂子 氏	遠野
松崎 正一郎 氏	三和
小野 勝史 氏	小名浜、勿来、田人



編集後記

桜の開花が例年になく早かったですが、新川沿いの桜並木もすっかり新緑で染まっています。

平成30年度となり、いわき農林事務所も家久来所長をはじめ新しいメンバーを迎えましたが、気持ちを新たに、「サンシャインいわき」の農林水産業の情報を精一杯発信してまいりますので、今年度もよろしくお願いいたします。



菜の花の黄色と新緑のコントラストがきれいです

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース